

令和6年度 こども家庭科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))
子どもの死亡を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究
分担研究報告書

こどもの傷害予防にかかる情報収集と予防策の探索

傷害予防の検証のための啓発資料の開発

研究分担者	植松 悟子	国立成育医療研究所 救急診療部 統括部長
	沼口 敦	名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部
	小谷 泰一	三重大学大学院医学系研究科 法医法科学
研究協力者	小鹿 学	山梨大学大学院 小児科学
	佐々木 理	母恋天使病院 小児科
	内田 佳子	国立成育医療センター 救急診療部
	梅本 正和	うめもとこどもクリニック
	大平 智子	宮崎大学 小児科
	富田 慶一	国立成育医療センター 救急診療部
	森脇 太郎	国立成育医療センター 救急診療部

研究要旨

都道府県を実施主体とするチャイルド・デス・レビュー (CDR) モデル事業が、令和2年度から始まった。これまでCDRに限らず、さまざまな制度のもと死亡事象等に対する検証が行われ、発生要因や対策等についての検討がなされてきた。しかし一部に、社会への訴求が一過性だったり、結果の公表が限定的だったり等の理由で、十分に活用されていない場合が散見され、結果として類似事案が繰り返し発生する。現状を分析し、社会に対して有効な対応を促すためには、すでに各分野において提唱された指針、予防策、啓発等を熟知したうえで、あるいは確認しながら検証に臨む必要がある。

本分担研究では、CDR (モデル事業) で検証対象として取り上げられやすいと想定される対象項目を抽出し、それぞれにつき既出報告、文献、その他情報を収集して、統一的なフォーマットで要約して「わが国のChild Death Review (予防のためのこどもの死亡検証) こどもの傷害予防ガイドランス2025」を編纂した。当ガイドランスが、各地で実現されるCDRモデル事業等において検証のための基礎資料として活用され、検証内容の底上げに一役買うことを期待する。また、検証過程で得られる知見を集積し、本ガイドランスの次の改訂に役立てることで、いわゆるPDCAサイクルが潤滑に行われることを期待する。このような取り組みは、地方自治体を実施主体として実施されるCDR (モデル事業) に対して、地域性を超えて学術的観点から実務支援を行うものである。有効なCDRの実現のため、今後も複数の学術的支援が探索されることが期待される。

A. 研究目的

わが国で、都道府県を実施主体としたチャイルド・デス・レビュー (以下 CDR) モデル制度が実現

している。CDR の理念として、死亡の態様や原因にかかわらず、すべてのこどもの死亡について検証対象とすることが望ましいが、現実的にはリソー

スの限度のため、検証事例をある程度厳選しなければならぬ場合が多い。その際に、「予防可能性」が比較的高いと考えられる外因死、不詳の死が優先的に選択されることが想定される。

これまでCDRに限らず、さまざまな制度のもと、死亡事象や死亡に至らないまでも重大な事象に対する検証が行われてきた。その結果として発生要因や対策等についての検討がなされていることも多い。ただし、検討が繰り返されても社会への訴求が一過性だったり、結果の公表が限定的だったり等の理由で、十分に活用されていない場合が散見され、結果として類似事案が繰り返し発生する。現状を分析し、社会に対して有効な対応を促すためには、すでに各分野において提唱された指針、予防策、啓発等を熟知したうえで、あるいは確認しながら検証に臨む必要がある。

B. 研究方法

本研究では、CDR（モデル事業）で検証対象として取り上げられやすいと想定する、下記10の対象項目について、過去の報告、文献、その他情報を収集して、CDRにおける多機関検証の参考資料として用いる資料の制作を試みた。

（調査対象項目）

1. 窒息
食品
食品以外
首が締まる（睡眠環境は除く）
2. 誤嚥
食品
食品以外
3. 誤飲
ボタン電池・コイン型電池
強力マグネット
吸水性樹脂ボール
4. 中毒
家庭用品
薬物

- 植物
5. 墜落
 6. 溺水
屋内溺水①（入浴）
屋内溺水②（プール）
屋外溺水①（海・川など）
屋外溺水②（ため池）
 7. 熱傷
 8. 環境傷害
熱中症① 乳（幼）児の養育環境の問題
熱中症② 主に学童・生徒のスポーツなど
寒冷傷害
 9. 交通外傷
歩行者
自転車①（衝突、自損事故）
自転車②（同乗）
乗用車同乗
 10. 睡眠関連死
SIDS
睡眠中の窒息

C. 研究結果 および D. 考察

各地のCDRモデル事業において検証実務を担当する複数の研究者により、各項目についてCDRで検証を行うとした場合に必要と思われる情報をリストアップした。これらを相互比較し、以下のような統一的なフォーマットで要約することで、検証の参考資料として活用するべく編集できると考察された。

（要約フォーマット）

【要旨】

【疫学・報告】

【国内で発出されているリーフレット】

【関連する法令等】

【海外の対策】

【国内の対策・要望】

【まとめ】

【コラム】（ただし必須としない）

この書式で記述を統一し、「わが国の Child Death Review (予防のためのこどもの死亡検証) こどもの傷害予防ガイドンス 2025」を編纂した。

E. 結論

本分担研究では、外因死のうち主な死亡態様を抽出し、国内外の推奨事項等を収集して掲載した「わが国のChild Death Review (予防のためのこどもの死亡検証) こどもの傷害予防ガイドンス 2025」を編纂した。当ガイドンスが、各地で実現されるCDRモデル事業等において検証のための基礎資料として活用され、当該項目に関する検証参加者間の共通認識を形成し、検証内容の底上げに一役買うことを期待する。今後、検証過程で得られる知見を集積し、本ガイドンスの次の改訂に役立てることで、いわゆるPDCAサイクルが潤滑に行われることを期待する。

このような取り組みは、地方自治体を実施主体として実施されるCDR (モデル事業) に対して、地域性を超えて学術的観点から実務支援を行うものである。有効なCDRの実現のため、今後も複数の学術的支援が探索されることを期待する。

F. 健康危機情報

(特記すべきことなし)

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

(特記すべきことなし)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

(特記すべきことなし)